

学位被授与者氏名	竹下 多美 (たけした たみ)
論文題目	ホーソーンのピューリタンへの視座 ーヘスターの針仕事を巡って
論文審査結果の要旨	<p>ヘスターの針仕事の描写は作中に偏在しながらも、針仕事の意義の考察に特化した先行研究は見当たらないため、本論文は新機軸の論考となっている。特に、ヘスターの針仕事が紡ぎだす、娘のための衣装の描写が 5 箇所にもわたって間欠的に登場する点に注目し、その変遷の諸相と、変わることのない普遍的な側面の両面を明らかにし、このあり方がホーソーンのピューリタン共同体観と、どのように連動しているかを明示した箇所は、独自性と説得力の両面から高く評価できる。さらに、ヘスターの針仕事が、為政者と庶民に対して全く異なった意味を有している点に着目し、この意味を論じている下りも斬新な論考となっている。しかしながら、梗概の①から⑤の視点は統合される形で、作者のピューリタン共同体への見解を明らかにするには至っておらず、やや相互の関連性を欠いた様態となっている点を否定できない。また本論文においては、作品の背景となっている 17 世紀のニューイングランドの歴史的事実や、キリスト教や美術史に関する知見などを積極的に援用することにより、論考の説得力を高める試みを行っている。その際の論考は、独自性と説得力の点からは一定の評価ができるが、論文の主題とは必ずしも有機的には連結しておらず、独立した考察としての色彩を帯びているのが惜しまれる。また、論文の着眼点は斬新ながら、結論として導かれた、ホーソーンのピューリタン観も独自性が十分であるとは評価し難い。以上の諸点を勘案して本修士論文は C 評価とする。</p> <p>2020 年 2 月 19 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E-313 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(文化・言語)として十分な内容であると判定した。</p>